

1.8 情報化社会における図書館の役割

情報学者
古瀬 幸広

情報化社会における 図書館の役割

古瀬 幸広
furuse@kk.iij4u.or.jp
情報学者

1

「情報化社会」の定義

- 1960年代に誕生
 - マスメディアの発達
 - 電信電話、衛星中継などの登場
- 昨今の「情報化社会」の特徴
 - 音声・動画のデジタル情報処理化とその発展
 - インターネットによる双方向化・高速化
 - 携帯電話の3G移行・高機能化

2

特徴1: デジタル情報処理化

- 文字のデジタル化
 - テレックス コンピュータ
 - 日本語は1978年1月1日より(JIS規格制定)
- 音声、静止画、動画のデジタル化
 - 1990年代に発達。規格化が進む。
 - jpeg, mpeg
 - WWWの登場(1994年に爆発)
 - DVDの登場
 - ブルーレイディスク準備中

3

特徴2: 双方向化・高速化

- インターネットの普及
 - 個人でも、世界に向けて情報発信可能
 - WWW
 - ML, メールマガ
- 「出版者」という概念の変化
 - マスコミから個人へ
 - いまやGoogleこそが、出版者
 - 編集者の不在

4

特徴3: 携帯電話の3G移行

- FOMAなど第三世代携帯電話の普及
 - 通信速度向上
 - テレビ電話などのアプリケーションへ
 - 高機能化
 - お財布ケータイ
 - 大画面化
 - 電子書籍端末化
 - 画像認識メディア化
 - カメラ付ケータイとQRコード

5

デジタル情報発信世界の特徴

- 長所
 - 国境がない/一次情報源にあたる
 - グリニッジ天文台やホワイトハウスに直接確かめに行ける
 - 商業出版になじまない情報の共有に向く
 - 検索もできる
- 短所
 - 固定化されない→引用しづらい→知識として蓄積されない
 - 精査するのは自分自身

6

「知の状況」の現在

- 「情報」はインターネットにちりばめられた
 - 料理法、栽培法、地図...
 - 一次情報(政府発表、統計、企業広報...)
- 「商業出版」は限界
 - 本が売れない
- 「学術出版」はとくに限界
 - 流通しない

7

あるべき図書館の役割

- 本を集積するだけなら、倉庫
 - 「分類」し、整理してこそ図書館
 - 利用者の利便性向上、学問発展への寄与
- 情報があふれるネット時代に向けて
 - 新時代においても「図書館」として機能するには、どうすればよいか？
 - Googleにその地位を奪われたままでよいか？
- 情報を精査するのは誰か？

8

たとえば...

- 活字出版物とデジタル出版物
 - 情報の「固定」に差
- それが「参考文献」として利用されるためには
 - なんらかの形で情報が固定される必要
 - なんらかの形で、つねにアクセスが保証されている必要がある。
- 「図書館」、とくに大学図書館の役割では？

9

まとめ

- 21世紀の「知の館」であるために
 - 増え続ける書物の情報をデジタル情報技術で管理していくこと
 - 利用者に多様な検索手段、アクセス手段を提供すること
 - 書物のみならず、WWWに掲載されるデジタル出版物をもターゲットとすること
 - ネットワークで各図書館がつながり、効率のよい協業をすること

10